

第2回神戸市海洋産業振興に関する有識者会議 議事要旨

日 時：2023年8月2日（水）14:00～16:00

場 所：神戸市役所1号館24階 1243会議室

議事要旨：神戸らしい海洋産業とは何かを探るため、神戸のイメージである「港」「ファッション」を切り口にゲストスピーカーを招集し意見交換を行うとともに、今後注目すべき分野として「DX」を挙げ、最先端事例を参考に議論を深めた。

○ゲストスピーカー

伊地知由美子氏

日本真珠輸出組合 専務理事

日本サステイナブル・レストラン協会 パートナーシップマネージャー兼西日本支部代表

テーマ：「海×SDGs」真珠とレストランの持続可能な取り組み

○議事要旨

【前半】

ゲストの話をもとに、神戸らしい海洋産業という視点で、真珠産業と外食産業の現状と今後の見通しについて、質疑応答や意見交換を行った。

【後半】

幅広い海洋ビジネスの最先端事例を参考に、主にDX分野での取り組み方について議論を深めた。以下、主な意見。

- ・ 若年層が海洋産業に参入するには、新しいテクノロジーという視点が必要。
- ・ 現状では忙しすぎてDXを検討できない当事者（職人など）と新しいテクノロジーの間に入ることができるのが若者であろう。
- ・ 自動車業界では、様々なIT化が進んでいる。海事分野では世界でもまだそれほど進んでいない。
- ・ 神戸の実海域での実証事業に、学生なども巻き込む。産業界の課題と若者をつなぐ役割を市が果たす産学官連携という方法が良いのではないかな。
- ・ 人口減少に伴い、これからはひとりが複数の役割を果たす時代。神戸ならではの組み合わせを考えてはどうか。
- ・ 水中ロボットなどの新しいテクノロジーを実践する場所として、実海域でのテストフィールドを整備するのではなく、神戸港の施工・維持管理の現場に新しいテクノロジーの導入を積極的に推進するという方法もある。
- ・ 価格競争だけでなく技術の加点も取り入れることは、企業の技術力があがることにつながる。技術の品質を担保する国交省のNETIS登録をうまく活用するなどして、企業に新技術をトライさせる仕組みを神戸が積極的に推進することも検討していいのではないかな。